

公益財団法人
ケア・インターナショナル ジャパン
2021年度 (2020年7月～2021年6月)
年次報告書





世界的な新型コロナウイルスのパンデミックは、2021年9月半ば現在、感染者数が世界全体で2億2千万人を超え、未だにその終息に目途がついていません。これは単に人間の生命・健康に関する問題に止まらず、深刻な社会的経済的危機を引き起こしており、特に途上国では感染拡大とともに極度の貧困が急速に拡大していることが懸念されます。

更に、地域によっては、気候変動による干ばつや洪水に苦しめられ、或いは、政治的混乱により新たな難民や人権の問題も生じています。

このような状況において、貧困をなくすすべての人々が尊厳を持って安心して暮らせる世界を目指すケア・インターナショナルの役割は益々重要になっていると言えます。

昨年のケア・インターナショナル総会では、2030年までの活動方針として「CAREビジョン2030」を採択しました。同ビジョンでは、新型コロナが引き起こす困難に対応し、また、持続可能な開発目標(SDGs)達成への貢献を目指して、包摂性をより重視し、貧困をなくすという目標の下、①ジェンダー平等、②人道的支援、③食糧と水の供給、④女性の経済的地位、⑤人間の健康、そして⑥気候変動による影響の6つの分野に焦点を当てることとしています。

これらのいずれの問題においても女性や女子の被害や負担への対応、或いは、女性の地位や能力の向上が問題解決の重要な鍵となっており、女性や女子に活動の重点が置かれることは従来と変わりはありません。

私どももこのような方針を共有し、2021年度には、東ティモールとタイにおける開発支援事業や新型コロナウイルス感染対策と東ティモール洪水被害に対する緊急支援を実施しました。新年度におきましては、新たにアフガニスタン緊急支援事業にも取り組みます。

CAREの活動は、他のNGOのように子ども、医療、食糧、難民といった特定の分野に限定されることなく、ニーズに応じて様々な課題に加盟団体が協力して総合的に対応できることが1つの重要な特徴です。

当財団としても、ケア・インターナショナルの一員としてこのような増大する課題に取り組む上で、更なる財政基盤の強化と事業の拡充が必要となっています。今般、新たな事務局長を迎え、役員体制も強化を図り、お陰様で法人会員、個人会員も増加の傾向にあり、決意を新たにCAREのミッション実現に努める所存です。

これまでに賜りました皆様のご支援に心より感謝申し上げますとともに、更なる活動強化へ向けての一層のご指導とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

2021年度事業報告

開発支援事業

継続事業

東ティモール

学習教材「ラファエック」を通じた自立支援事業

P4

継続事業

東ティモール

農業用水改善事業

P5

継続事業

タイ

理数系(STEM)教育を通じたリーダーシップ育成事業

P6

緊急・復興支援事業

継続事業

新型コロナウイルス感染症緊急支援事業

P7

A WORLD OF CARE

CARE INTERNATIONAL COUNTRY PRESENCE FOR FY20

1. Afghanistan	14. Cameroon	27. Egypt**	41. Indonesia**	55. Mali	69. Papua New Guinea	83. Switzerland	96. Vietnam
2. Albania	15. Canada**	28. El Salvador	42. Iraq	56. Mexico	70. Peru**	84. Syria	97. West Bank & G
3. Australia**	16. Chad	29. Ethiopia	43. Italy	57. Montenegro	71. Philippines	85. Tanzania	98. Yemen
4. Austria**	17. Colombia	30. Fiji	44. Japan**	58. Morocco**	72. Romania	86. Thailand**	99. Zambia
5. Bangladesh	18. Costa Rica	31. France**	45. Jordan	59. Mozambique	73. Rwanda	87. Timor-Leste	100. Zimbabwe
6. Belgium	19. Côte d'Ivoire	32. Georgia	46. Kenya	60. Myanmar	74. Senegal	88. Togo	
7. Benin	20. Croatia	33. Germany**	47. Kosovo	61. Nepal	75. Serbia	89. Tonga	
8. Bolivia	21. Cuba	34. Ghana	48. Laos	62. Netherlands**	76. Sierra Leone	90. Turkey	
9. Bosnia and Herzegovina	22. Czech Republic	35. Greece	49. Lebanon	63. Nicaragua	77. Solomon Islands	91. Uganda	
10. Brazil	23. Democratic Republic of the Congo	36. Guatemala	50. Liberia	64. Niger	78. Somalia	92. United Kingdom**	
11. Burkina Faso	24. Denmark**	37. Guinea	51. Luxembourg	65. Nigeria	79. South Africa	93. United States of America**	
12. Burundi	25. Dominican Republic	38. Haiti	52. Macedonia	66. Norway**	80. South Sudan	94. Vanuatu	
13. Cambodia	26. Ecuador	39. Honduras	53. Madagascar	67. Pakistan	81. Sri Lanka**	95. Venezuela	
		40. India**	54. Malawi	68. Panama	82. Sudan		

2021年7月に、事務局長に就任しました。第2次世界大戦後の日本において、食糧や生活物資が不足し、私たちの父母や祖父母の世代が大変な状況にある時に、アメリカから届いた「CAREパッケージ」に大いに助けられたことを知りました。当時の支援に対し恩返しをすることが自分たちの責任であるとの気持ちで、CAREの理念の実現のために努力する所存です。何卒よろしくお願い申し上げます。

今年度は、ケア・インターナショナルの新長期ビジョンである「CAREビジョン2030」の下での初年度となりました。

「CAREビジョン2030」は、長年に亘るCAREの貧困との闘いや人道支援活動の経験と学びに基づき、ジェンダー問題を中心テーマとして構築されています。これに基づき、ケア・インターナショナル ジャパンは、以下のような活動を行いました。

国際協力事業については、東ティモールでの学習教材「ラファエック」を通じた自立支援事業およびタイでの理数系(STEM)教育を通じたリーダーシップ育成事業を継続するとともに、新型コロナウイルス感染症の拡大により開始が遅れていた、東ティモールでの農業用水改善事業を2021年1月に立ち上げました。その上で、ジェンダー分析を実施し、ジェンダーに関するアクションプランとモニタリングフレームワークを策定しま

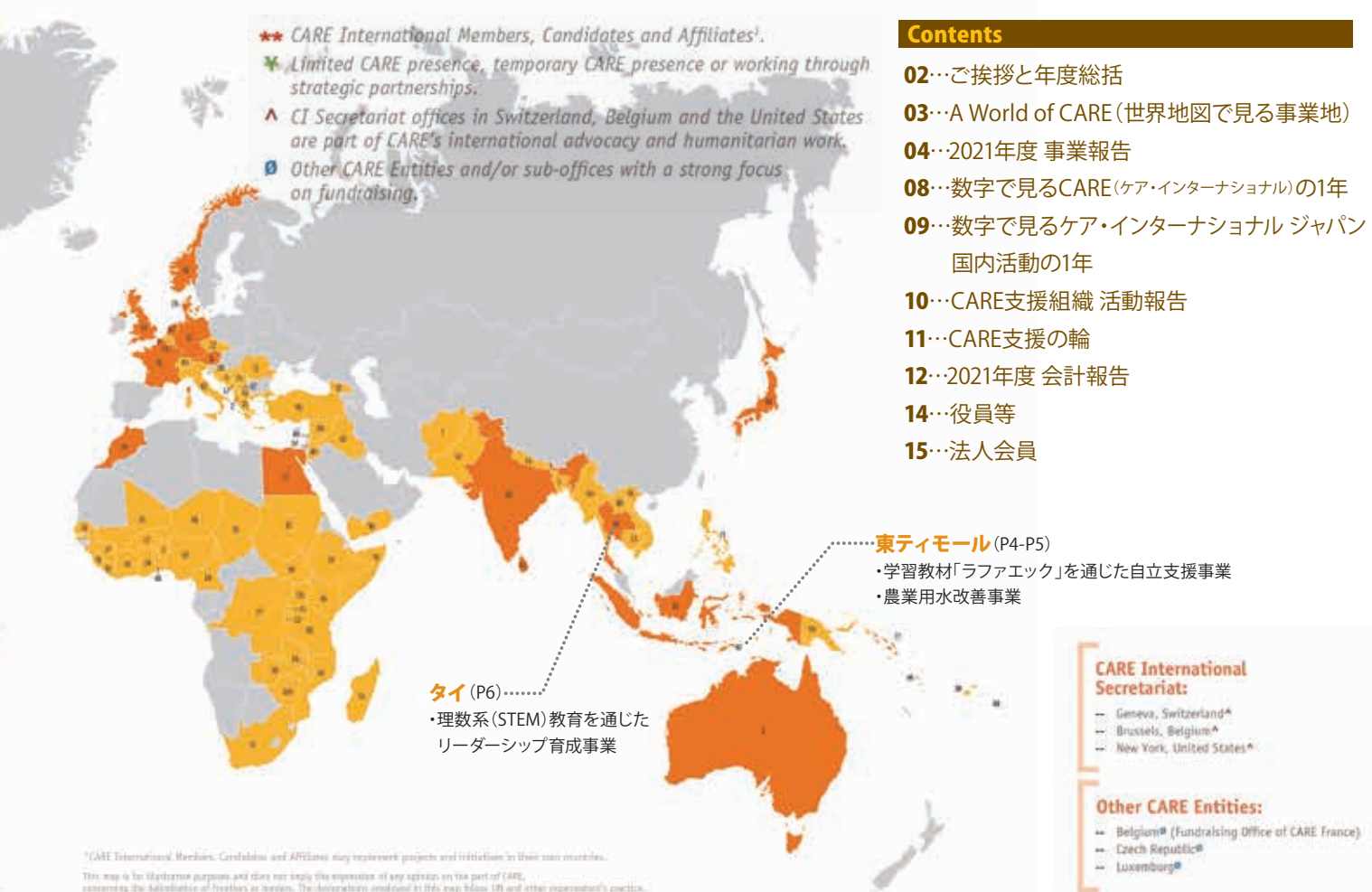
した。また、緊急・復興支援として、新型コロナウイルス感染症緊急支援事業を継続するとともに、東ティモールでの豪雨被災者緊急支援事業に取り組みしました。

啓発普及事業では、民間資金による自己資金力の向上のため、多様な層への戦略的コミュニケーションを強化し、支援者の裾野を拡大する努力を継続しました。具体的には、様々な方法で個人定期支援者の増加のための努力を継続したほか、特に10周年を迎えた歩く国際協力「Walk in Her Shoes」では過去最大の参加者数と寄付収入を実現しました。また、世界的な新型コロナウイルス感染症対策のために、クラウドファンディングを行い、幅広い層に緊急支援を募りました。

他方、事務局においては、コロナ禍によりボランティアの受け入れを一時中断する一方、リモート勤務環境を整備し、在宅勤務による職員の安全確保の体制を整えました。

さらに、新理事の就任により理事会としてより多角的な視点から当財団の運営を支援、監督する体制も整えました。

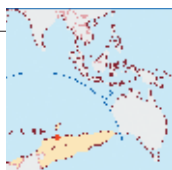
今後、より多くの皆さまにCAREの活動を知っていただき、支援の手を差し伸べていただけるよう、そしてより多くの人々が希望に満ちた世界の実現を体感できるよう、CAREは活動を続けて参ります。皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。



継続事業 東ティモール

学習教材「ラファエック」を通じた自立支援事業

— アジアで一番新しい国の農村部の人たちに生きるチカラを届ける —



活動地域: 東ティモール全13県

事業期間: 2019年7月～2022年6月(3年間)

事業規模: 当年度支出額531千円(総事業予算: 年間約1.5億円 *他ドナー資金を含む)

主な支援者: 企業、個人

290,619 部

年3回配布した成人向け「ラファエック」の総数

1,602 校

「ラファエック」を配布した学校数

140,900 人

「ラファエック Facebook」フォロワー数



©Josh Estey/CARE

課題

アジアで一番新しい国である東ティモールは、国民の約4割が1日1.25ドル以下で暮らすアジア最貧国の一つ。貧困層の85%は農村部に暮らし、農村部と都市部の経済・教育格差が顕著となっています。教育言語であるポルトガル語の成人識字率は都市部で約40%である一方、農村部では約18%と圧倒的に低くなっています。農村部では十分な識字能力や計算能力を身に付けることができないため、経済活動や家計の管理に支障をきたし、親の識字能力の低さが子どもの栄養・健康状態、そして就学率にも悪影響を及ぼしています。

活動内容

新型コロナウイルス感染拡大により、一時活動休止を余儀なくされるも、計画通り、成人向け、未就学・小学校低学年向け、小学3～6年向け、教員向けの4種を制作。全13県で3回にわたり、計58万人の子どもたちと教師、そして農村地域を中心とする計29万世帯に配布しました。さらに、50年に1度といわれる豪雨災害の際には、過密状態が懸念される避難所に身を寄せる子どもたちに、「ラファエック」25万冊を配布。読み聞かせや読書会なども企画して感染予防を啓発するとともに、子どもたちの心のサポートも行いました。また、都市部の青年層を対象に、オンラインによる情報サービスの強化に取り組みました。一方、地方ではインターネットの環境が十分に整備されていないことから、さらなる情報格差や支援活動の遅れが生じないように配慮と工夫が求められています。

受益者の声



ヴェンセスさん

学校から帰宅後、弟や妹と毎日欠かすことなく、ラファエックを読む小学5年生のヴェンセスさん。「数学や文章を読む力を高めてくれるラファエックで勉強できるのは、本当にうれしいです」と目を輝かせます。中でも、太陽系にとっても関心強いヴェンセスさんは、「木星は太陽系最大の惑星で、土星には環があり、海王星は地球から最も遠い惑星です」と自信たっぷりに教えてくれました。ヴェンセスさんの将来の夢は、警察官になることです。

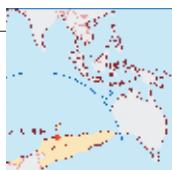
50年に一度の豪雨 被災者緊急支援

2021年4月3日、熱帯低気圧サイクロン・セロージャがもたらした豪雨により、東ティモールで大洪水と土砂災害が発生。首都ディリをはじめとする沿岸地域の低地は最も被害を受けました。全土で 189,108 人、33,177世帯、2,163ヘクタール(東京ドームおよそ460倍の広さ)の農地が被災しました。

継続事業 東ティモール

農業用水改善事業

— 地球にも女性にもやさしい点滴灌漑を使って、貧困削減と女性のエンパワメントを目指す —



活動地域: エルメラ県アッサベ郡の4村内12集落

事業期間: 2020年3月31日～2023年8月31日(3年5か月間)*うち、2020年3月31日～同年10月31日の約7か月間は中断期間

事業規模: 当年度支出額22,551千円(総事業規模: 約144,000千円)

主な支援者: 外務省、支援組織、個人

12 グループ

農民グループの数

4,178 人

対象となる12集落内の農民の数

30 人

設備維持管理委員会メンバー数(うち半数は女性)



©Josh Estey/CARE

課題

活動地のエルメラ県アッサベ郡では、多くの人々が零細農業を営んでいますが、農業生産性は低く、生業状況は脆弱なため、貧困度の高い地域となっています。背景には、気候変動に伴う天候不順等、様々な要因がありますが、乾季の水不足も農業を妨げる大きな要因です。雨季の天水に頼った穀物の生産だけではなく、農業を多様化し、年間を通じ作物が収穫できる環境への改善が求められています。そのためには、農業用水設備の整備を進め、乾季の水不足を解決することが重要です。また、膨大な労力を必要とする水汲みと農作物への水やりは女性農民が主に担っています。貯水タンクや点滴灌漑設備などを設置することで、安定的な農作物の収穫が期待でき、さらに水汲みおよび水やりにかかる労働から女性農民を解放することが可能となります。

活動内容

駐在員が着任した2020年11月以降、活動地において、地域住民を対象に事業の概要説明と啓発活動を行うとともに、実地検分を行い、農業用水設備の詳細設計の策定と調達資材の見直しを行いました。また、農民グループのメンバーほか、各集落のコミュニティリーダーや住民の参加のもと、設備の設置場所、共同農地や水の利用に関する条件等について、関係者間の合意形成を図りました。その上で、設備維持管理委員会を立ち上げました。新型コロナウイルス感染拡大に伴う移動制限や洪水被害をうけ、活動の実施スケジュールを変更するなど、当初の計画に縛られることなく、状況に応じて実施形態を変えて活動を進めました。次年度も工夫を凝らし制約のもとでも活動を進めることが求められています。

受益者の声



ベアトリスさん

メンバーの推薦で農民グループのリーダーとなったベアトリスさん(46歳)は、2回のジェンダー研修を通じて、「伝統的に女性はほとんど畑仕事をしませんが、研修で女性も畑を耕すことができると学び、畑仕事に参加するようになりました。男性も子どもの世話をしたり、料理や洗濯をしたりして、男性と女性が助け合うことが大切だと学びました。今後、タイス(伝統的な手織りの布)を織って販売する活動をメンバーと一緒にしたいと思っています」と意欲的に語ってくれました。

当財団は、4月12日に、「東ティモール豪雨被災者緊急支援募金」を開始。2,055,000円のご寄付をいただきました。あたたかいご支援に心からお礼申し上げます。皆さまからのご寄付は、現地事務所が中心となって行った、避難所での学習雑誌「ラファエック」の配布、新型コロナウイルス感染予防対策(マスクや石鹸等衛生用品の配布)に活用させていただきました。



継続事業 **タイ** 理数系(STEM*)教育を通じたリーダーシップ育成事業(第2期)

— 企業と連携して、子どもたちの学業および職業機会を拡げる —



活動地域: アユタヤ県、ラヨーン県およびサムットプラカーン県
事業期間: 第1期2017年4月～2020年3月(3年間)、第2期2020年4月～2023年3月(3年間)
事業規模: 当年度支出額2,652千円(総事業規模: 30,000千円)
主な支援者: 日産自動車株式会社

*「STEM(ステム)」とは、Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Mathematics(数学)の頭文字をとった言葉。

16

校

支援の対象となる学校数

809

人

活動に参加した生徒数

44

人

研修を受けた教員の数(うち女性34人)



課題

タイ政府は、今後の経済社会の発展に向け産業人材の育成を課題とし、特に、高校進学において職業教育課程に進む生徒数の増加を促進するとともに、中学・高校における職業活動を積極的に推進しています。一方、多くの学校では、十分な予算がなく、職業活動に関する知識や技術を有する教師も不足していることから、これらの実現が困難な状況です。とりわけ、カンボジア等からの移民の子どもたちの学習環境は厳しく、中学・高校を卒業した後の職業選択も極めて限定され、貧困に陥りやすいことが指摘されています。中学・高校在学中に、社会人として必要なリーダーシップやマーケティングスキル、そしてライフスキルなどを身につける機会が求められています。

活動内容

2020年4月より第2期を開始し、第1期の対象学校9校に加え、新たに7校を選定。一方、新型コロナウイルス感染拡大に伴い全校が休校になるなど、中高生を対象とする活動が大幅に制限されたため、リーダーシップ育成キャンプ開催を含む主要な活動が、次年度へ延期となりました。その結果、第1期支援校での小規模ビジネスグループへの活動継続支援などが中心となりました。さらに、教員向けの研修を開催し、ジェンダー、環境教育、ライフスキル等の実践的な講義やワークショップを実施するなど、教員の能力向上にも取り組みました。今後も、制約下で活動を継続していくことが想定されますが、適宜人数制限を設けながら学校毎に個別の活動を行ったり、複数の活動を一度に集約して実施したりするなどの対策を講じつつ、着実に活動を進めていきます。

受益者の声



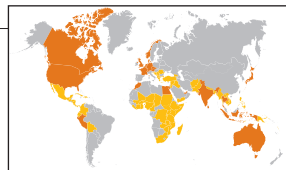
ポンチム先生

サムットプラカーン県の学校で教鞭をとるポンチム先生は、教員向けの研修に参加した一人。「このような貴重な機会を得られたことにとても感謝しています。研修で得た知識を生徒たちのみならず、同僚の教師たちとも共有していきたいと思っています。また、SNSなどを通じて、他県の教員たちにも情報を発信していきたいです。そして、あらゆる校内活動にSTEMの視点を取り入れていきたいと思っています」と熱心に語ってくれました。

継続事業

新型コロナウイルス感染症緊急支援事業

— 医療・介護従事者や難民など感染リスクの高い人々と社会的に弱い立場におかれた人々の命を守る —



活動地域: 全世界

事業期間: 2020年5月～2021年12月 (1年8か月間)

事業規模: 4,620千円 (総事業費: 1.4億ドル)

主な支援者: 支援組織、個人

69^{か国}

活動を実施した国の数

34,500,000^人

直接支援を受けた人の数

6,900,000^人

GBV (ジェンダーに基づく暴力) と性と生殖に関する保健サービスの提供を受けた人の数



©Asafuzzaman Captain/CARE Bangladesh

課題

新型コロナウイルスとの長い闘いを続けている世界は、公衆衛生の状態が劣悪で医療システムが脆弱な途上国や紛争地域への感染拡大の影響を最小限に留め、ワクチンの公平な供給を行うという課題と対峙しています。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響は男女によって差があります。全世界的に家庭で病人など無償のケアを担うのは76.2%が女性。また、医療施設では、介護者や看護者の約7割を女性が占め、防護措置も不十分な中、医療の最前線に立つ女性の感染リスクが懸念されています。さらに、感染者の隔離や経済的な苦境におかれた世帯ではストレスが高まり、その結果、家庭内暴力や性的搾取が増加する傾向があります。

活動内容

ケア・インターナショナルとしてのグローバルな連携と連帯のもと、本事業を最優先し、公衆衛生の啓発、安全な水の供給、食糧配布、衛生用品 (石鹸、手指消毒、生理用品など) の配布、現金や商品引換券の配布、感染予防と医療提供についての情報発信、ジェンダーに基づく暴力の予防と保護などの活動に取り組みました。また、20年以上のワクチン事業の経験を活かして、複雑なワクチン輸送の運営や技術指導を行うとともに、見過ごされやすい現場の助産師や衛生ボランティアなど医療従事者の声をすくい上げました。今後は、同様の感染症の再出現とまん延を予防するため、地域、世帯、個人それぞれの回復力を強化していくことが求められています。

受益者の声



©Terhas Berhe/CARE

マハレットさん

コロナ禍でCAREが30年前にニジェールで立ち上げた貯蓄貸付の仕組みVSLA*が見直されています。コロナ以前も、VSLAの女性たちは、気候変動など地域の課題に連帯して取り組んでいましたが、感染拡大に際しては、それぞれの地域でリーダーシップを発揮し、感染予防に関する情報発信を担うなど、互助会的な機能を果たしています。エチオピアでVSLAのリーダーを務めるマハレットさんは、「私たちが行った手洗い指導により、コレラや風邪の感染者数も減った」と喜ぶ一方、学校の休校により、女子生徒の早期婚が増えたといいます。「女子たちが経済的にも社会的にも自立していけるよう、この活動を続けていきたい」と語ってくれました。

*VSLAとは、15～25人で構成される村内貯蓄貸付組合で、貯金と小規模貸付を行う。返済金の利息がもたらす収益はメンバー間で分け合う仕組み。従来型の銀行には融資してもらえず、マイクロファイナンス機関も利用できないほどの僻地では、現地の銀行として機能している。

数字で見る ケア・インターナショナルの1年

104

活動国の数(国)



実施プロジェクトの数(事業)

1,349

92,343,661

直接受益者数(人)
(うち73%は女性)

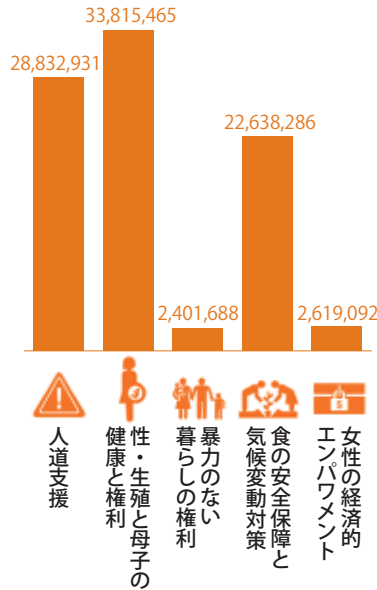


433,441,405

間接受益者数(人)
(うち45%は女性)

事業別直接受益者の数

(数字は人数)



人道支援



性と生殖と母子の健康と権利



暮らしの権利



暴力のない暮らし



食の安全保障と気候変動対策



女性の経済的エンパワメント

直接受益者の数トップ10

(数字は人数)

1	インド	51,205,675
2	バングラデシュ	7,701,200
3	イエメン	2,859,369
4	コンゴ民主共和国	2,457,895
5	シリア	2,127,519
6	ソマリア	2,062,308
7	エチオピア	1,700,458
8	南スーダン	1,391,613
9	ケニア	1,223,027
10	ガーナ	1,114,658



CARE x SDGs

CAREは、2030年に向けて世界が合意したSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けて取り組んでいます。2015年から2020年までの間、81の国と地域において、1億5,700万の人々に変化をもたらしました。具体的には、17のSDGsの目標のうち、11の目標で大きな変化に貢献し

ました。特に、目標1(貧困をなくそう)、目標3(すべての人に健康と福祉を)、目標5(ジェンダー平等を実現しよう)、目標8(働きがいも経済成長も)、目標17(パートナーシップで目標を達成しよう)に大きく貢献することができました。



5 ジェンダー平等を実現しよう



1,250万人

66か国において、女性と女子に対し、エンパワメントとジェンダー平等のレベルを高める支援を行いました。

1 貧困をなくそう



7,110万人

51か国において、質の高い人道支援、基本的なサービスへのアクセス、または貧困削減のための支援を行いました。

8 働きがいも経済成長も



1,650万人

64か国において、人々が経済的エンパワメントと尊厳ある労働を向上できるよう支援しました。

3 すべての人に健康と福祉を



4,260万人

37か国において、女性たちが性的・生殖的健康への権利を行使することを支持し、支援しました。

17 パートナーシップで目標を達成しよう



5,780万人

53か国で、242のアドボカシー活動などによって人々の生活に改善が見られました。

数字で見る ケア・インターナショナル ジャパン国内活動の一年



東海ラジオ「TOKYO UPSIDE STATION」

新聞掲載及び
テレビ放映等の
合計報道実績件数

9件

個人定期支援者数

431人

当財団の職員数
(海外駐在員を含む)

9人



イベント参加者数 / 回数 (講師派遣を含む)

778人 19回



企業による延べ寄付件数

92件

CARE 支援組織の会員数

600人/社

個人による延べ寄付件数

5,664件

ボランティア登録者数

519人



当財団ホームページへの
アクセスページ数

174,628ページビュー (PV)

物品・サービス提供による
支援の寄付相当額

308,005円

Facebook のファン数

3,698人



インターン
受入数

7人



「あつめて国際協力」への
支援総額 (法人・団体・個人)

501,861円



歩く国際協力
「Walk in Her Shoes 2021」参加者数

2,252人

プロボノによる
延べ協力件数

24件

CARE 支援組織 活動報告

全国から届いたレポートを
紹介します

ケア・フレンズ 岡山



野外コンサート(2020年11月4日)

クラリネットとソプラノ歌手による野外コンサートとチャリティバザーを開催。約200名の皆さまにご参加をいただきました。コロナ禍に配慮して密を防ぎ、広い庭園でコンサートを楽しみました。「枯葉」は秋の背景と相まって、心に響く思い出となりました。

ケア・フレンズ 東京



部長会(2021年6月10日)

コロナ禍に配慮しつつ毎月の部長会を粛々と重ねています。例会の休止は続いています。会員の皆さまには、会の運営費および東ティモール事業への支援金をお寄せいただき、心より感謝しています。今後も、「心一つに」がんばって参ります。

ケア・サポーターズクラブ 大分



Walk in Her Shoes 2021 in九州(2021年3月8日~3月22日)

九州のCARE支援組織と連携して歩く国際協力「Walk in Her Shoes 2021 in九州」を実施しました。コロナ禍での初めての取り組みとなりましたが、たくさんの皆さまのご協力により68名のご参加に加えて、地元大分から33法人にご協賛いただきました。

ケア・サポーターズクラブ 熊本



バザー(2020年7月4日~7月11日)

熊本地震、豪雨災害、そして新型コロナウイルス感染症などの被害が連続したため、財源を確保することが難しく、資金調達のためにバザーを行いました。会員の自宅で1週間開催しましたが、延べ来場者数は100人を超え、収益も75万円となりました。

ケア・フレンズ 長野



チャリティ食事会とバザー(2020年10月29日)

コロナ禍のため、参加者を7割に縮小してバザーとチャリティランチ会を開催。70名の皆さまにお越しいただき、バザーの売上も去年と同程度となりました。また、ランチ会では、チェロのミニコンサートもあり、とても和やかな会となりました。

ケア・サポーターズクラブ 佐賀



ホームページ制作(2020年11月)

CARE主催のオンライン活動報告会への出席、また九州の支援組織の皆さまとの共催イベント「Walk in Her Shoes 2021 in九州」などを通じ、世界の女性や女子の現状やCAREの支援についての理解を深めました。また、11月には、佐賀のホームページが完成しました。

ケア・サポーターズクラブ 鹿児島



役員会(2020年10月2日)

多くの皆さまに、ケア・サポーターズクラブ鹿児島の活動内容をご理解いただけるよう、役員会議にて、団体紹介資料の制作に向けての検討を行いました。CAREのリーフレットを参考にしつつ、デザインや掲載内容などについてイメージを共有しました。

ケア・サポーターズクラブ 千葉

新型コロナウイルスが蔓延する中、役員会や集会などの活動を行うことができませんでした。ケア・サポーターズクラブ千葉の活動は全県一区で、会員が集まるにも移動が多くなってしまうため、コロナ下で一室に会することは容易ではありません。今後、新型コロナウイルスの収束状況に応じて役員会を行い、これからの対策について検討していきます。

CARE支援の輪

様々な形で活動を支援して下さっている皆さまを紹介します

10周年!歩く国際協力「Walk in Her Shoes」



途上国の女性や女子が毎日水汲みなどのために歩く8,000歩を体験するチャリティウォークキャンペーン。10周年の節目を迎えた本年度は、過去最多の2,252名のご参加をいただきました。「好きな時間、好きな場所で歩く」では、コロナ禍でもオンラインでつながりながら気軽に国際協力と健康増進を図ることができる取り組みとして、個人および企業の社員の皆さまなど幅広いご賛同を得ることができました。また、新たに国際協力の学生団体とも連携することで、大学生を中心に多くの学生参加も促進することができました。さらに、本年

度は、CARE支援組織との連携による九州限定オンラインイベントや、各地での自主企画イベントの開催も実現。創意工夫を凝らしながら、様々な形でキャンペーンを広めることができました。

●参加者の声

- ・世界のどこかで今も毎日水を汲みに長距離を歩いている少女がいることに思いをはせながら、微力ながら自身の日々の生活の中で支援できるイベントは大変有意義な時間でした。
- ・何もなければ、国際協力のことなど意識になかなか上りませんが、このような機会に職場をあげて参加できたことによって、少なからず途上国の女性たちに思いをはせることができたと思います。



プロボノ*

CAREの活動は、多くのボランティアやプロボノの皆さまによって支えられています。本年度は、コロナ禍により、事務局でのボランティア活動がかなり制限された一方で、日英の翻訳、各種広報媒体のデザイン、動画編集など、ご自宅からリモートでご協力いただける活動を中心に、特に広報啓発活動をご支援いただきました。

●デザイン・プロボノ 会田ひとみ様

女性の自立を目指すCAREの活動に共感し寄付から始めましたが、独立を機にプロボノに応募しました。実際にニュースレター作りに関わらせていただき、支援している地域をもっと応援したくなりました。思うように動けない不自由な期間が続いていますが、ニュースレター作りを通して現地や事務局で活動されるスタッフさんの活躍を身近に感じ、私もがんばろうと元気をもらっています！



*プロボノとは、「公共善のために」を意味するラテン語「Pro Bono Publico」を語源とする言葉。社会的・公共的な目的のために、職業上のスキルや専門知識を活かして取り組むボランティア活動を意味する。

CAREスマイルギフトキャンペーン

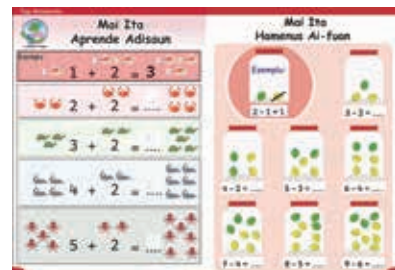
毎年、9月8日「国際識字デー」に、東ティモールでの教育支援へのご寄付を広く呼びかけています。本年度は、個人や法人の皆さまからのご支援に加え、生前、女性や教育支援に献身的に取り組まれたご家族の遺志に基づくご寄付もいただきました。その結果、学習雑誌「ラファエック」17,542冊を制作・配布するための活動費に相当する額の寄付金が集まりました。

●法人支援者の声

株式会社学研ホールディングス
コーポレートコミュニケーション室副室長
鈴木 映 様



学研のスタートは、戦後間もない1946年に創刊した『初等五年の学習』『初等六年の学習』という2冊の学習雑誌です。同じ学習雑誌のラファエックとの関わりも何かの縁を感じます。教育には人や国を変える力があります。SDGsすべてのゴール達成の基礎となるのも教育ではないでしょうか。ラファエックは2016年から支援をさせていただいていますが、これからも東ティモールの人たちに、学ぶことへの好奇心、喜びを提供し続けていただくことを願っています。



2021年度 会計報告

正味財産増減計算書 (2020年7月1日～2021年6月30日) 【単位:円】

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常収益			
基本財産・特定資産運用益	968,750	1,075,000	△ 106,250
受取会費	22,684,000	19,967,800	2,716,200
事業収益	15,428,572	1,200,751	14,227,821
受取民間助成金	0	147,700	△ 147,700
受取寄付金	31,920,133	32,835,891	△ 915,758
雑収益	4,866,317	2,233,745	2,632,572
経常収益計	75,867,772	57,460,887	18,406,885
2. 経常費用			
国際協力事業費	33,663,287	25,977,108	7,686,179
普及啓発事業費	26,628,852	22,624,146	4,004,706
管理費	8,919,869	8,735,504	184,365
経常費用計	69,212,008	57,336,758	11,875,250
評価損益			
基本財産・特定資産評価損益等	△ 610,975	282,550	△ 893,525
投資有価証券評価損益等	60,750	70,672	△ 9,922
評価損益等計	△ 550,225	353,222	△ 903,447
当期経常増減額	6,105,539	477,351	5,628,188
3. 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	6,105,539	477,351	5,628,188
一般正味財産期首残高	46,135,026	45,657,675	477,351
一般正味財産期末残高	52,240,565	46,135,026	6,105,539
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	19,406,116	20,252,308	△ 846,192
一般正味財産への振替額	△ 14,120,391	△ 19,552,080	5,431,689
当期指定正味財産増減額	5,285,725	700,228	4,585,497
指定正味財産期首残高	14,311,910	13,611,682	700,228
指定正味財産期末残高	19,597,635	14,311,910	5,285,725
III 正味財産期末残高	71,838,200	60,446,936	11,391,264

本年度決算は、主に歩く国際協力「Walk in Her Shoes」への参加者数および企業協賛の伸び、街頭での個人寄付勧誘の成果により収入が拡大したことに加え、固定費、人件費を抑制した結果、黒字決算となりました。

貸借対照表 (2021年6月30日現在) 【単位:円】

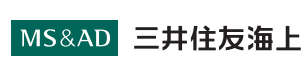
科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	29,528,495	36,194,538	△ 6,666,043
前払事業費用	16,204,435	19,455,664	△ 3,251,229
未収金	1,970,179	3,586,224	△ 1,616,045
貯蔵品	299,677	481,909	△ 182,232
前払費用・前払金・その他	371,573	550,279	△ 178,706
流動資産合計	48,374,359	60,268,614	△ 11,894,255
2. 固定資産			
基本財産	27,323,675	27,934,650	△ 610,975
特定資産	19,597,635	14,311,910	5,285,725
その他固定資産	6,462,805	6,298,382	164,423
固定資産合計	53,384,115	48,544,942	4,839,173
資産合計	101,758,474	108,813,556	△ 7,055,082
II 負債の部			
1. 流動負債			
前受事業収益	18,388,102	33,816,674	△ 15,428,572
未払金	7,596,047	11,835,505	△ 4,239,458
前受会	1,836,000	0	1,836,000
預り金	139,790	100,941	38,849
流動負債合計	27,959,939	45,753,120	△ 17,793,181
2. 固定負債			
退職給付引当金	1,960,335	2,613,500	△ 653,165
固定負債合計	1,960,335	2,613,500	△ 653,165
負債合計	29,920,274	48,366,620	△ 18,446,346
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	19,597,635	14,311,910	5,285,725
2. 一般正味財産	52,240,565	46,135,026	6,105,539
正味財産合計	71,838,200	60,446,936	11,391,264
負債及び正味財産合計	101,758,474	108,813,556	△ 7,055,082

役員等

(2021年6月30日現在)

名誉会長	柳井 俊二	国際海洋法裁判所 判事
顧問	稲川 素子 小泉 淑子 紘田 英哉 山東 昭子 日枝 久	株式会社稲川素子事務所 代表 弁護士 シティユーワ法律事務所 アークヒルズクラブ 専務理事 参議院議長、元科学技術庁長官 株式会社フジテレビジョン 取締役相談役
代表理事(理事長)	目賀田 周一郎	元メキシコ駐劄特命全権大使
代表理事(副理事長)	黒川 千万喜	元公益社団法人トヨタ財団 常務理事
理事	岩動 達 岩田 喜美枝 上野 宏 小島 明 田中 径子 田中 由美子 垂見 裕子 檜森 隆伸	株式会社ペンタインターナショナル 代表取締役 東京都監査委員 元大阪国税局長 公益社団法人日本経済研究センター 参与 株式会社日産フィナンシャルサービス 執行役員、栗田工業株式会社 社外取締役 城西国際大学 招聘教授、元JICA国際協力専門員(ジェンダーと開発) 武蔵大学社会学部 教授 パラカ株式会社 社外取締役、元国連UNHCR協会 事務局長・常務理事
監事	荒牧 知子 星野 彬	公認会計士・税理士 荒牧公認会計士事務所 元センチュリーメディカル株式会社 代表取締役社長
評議員	安倍 洋子 加藤 睦子 河野 洋子 近藤 茂夫 今野 秀洋 篠沢 恭助 高橋 衛 田中 皓 平林 博 渡邊 美佐	ケア・フレンズ東京 会長 ケア・フレンズ岡山 名誉会長 カランマス・セジャトラ社 取締役 三菱重工業株式会社 総務法務部顧問 一般財団法人貿易・産業協力振興財団 理事長 公益財団法人資本市場研究会 顧問、元大蔵事務次官 ドイツ証券株式会社 コンサルタント、株式会社パレスホテル 顧問 公益財団法人助成財団センター 代表理事・専務理事 公益財団法人日印協会 代表理事・理事長、元駐インド及び駐フランス大使 株式会社渡辺プロダクション 名誉会長

法人会員



アサヒグループホールディングス株式会社
伊藤忠商事株式会社
株式会社えがおホールディングス
株式会社エトウ
株式会社カスタムライフ
カランマス・セジャトラ社
株式会社スマート・アイ
セガサミーホールディングス株式会社
全日本空輸株式会社

大成建設株式会社
第一生命ホールディングス株式会社
株式会社大和証券グループ本社
東レ株式会社
日産自動車株式会社
日本製鉄株式会社
日本電信電話株式会社
日本メナード化粧品株式会社
株式会社ビデオエイペックス

株式会社フジテレビジョン
三井住友海上火災保険株式会社
三井物産株式会社
三菱重工業株式会社
三菱商事株式会社
ミマスクリーンケア株式会社
株式会社ヤマノビューティメイトグループ
株式会社ロッテ
株式会社渡辺プロダクション

(2021年6月30日現在)

Vision

ビジョン：

CARE は、貧困のない、すべての人々が尊厳をもって安心して暮らせる、希望に満ちた、包摂的で公正な世界を目指します。

Mission

ミッション：

CARE は、人々の命を守り、貧困をなくし、公正な社会を創ることを使命とし、世界中でその実現に向けて取り組みます。

Focus

フォーカス：

CARE は、女性と女子を活動の中心にすえます。

貧困をなくすためには、女性と女子を含むすべての人々が平等な権利や機会を得る必要があるからです。

Our Work

ケア・インターナショナル ジャパンの活動：

ケア・インターナショナル ジャパンは、世界 100 ヶ国以上で人道支援活動を行う国際 NGO ケア・インターナショナルの一員です。私たちは、多様性と包摂性を尊重し、特にジェンダー平等と女性と女子のエンパワメントにフォーカスした開発支援活動に注力します。これにより、持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に寄与します。

ケア・インターナショナル ジャパンのあるべき姿：

私たちは、上記の活動を行う上で、以下の組織を目指します。

1. CARE 現地事務所とのパートナーシップのもと、より確実な事業成果を出せる組織
2. 私たちの活動が広く認知され、多くの共感と支援を得られる組織
3. 収支バランスのとれた持続性のある組織



care®

ロゴについて：

互いにまっすぐ伸びていく手が形作る輪。グローバルな視点で地球規模の問題に力を合わせて立ち向かう、CAREの活動の本質をイメージするものです。それは、一体であるだけでなく、多様性を認めるものでもあります。様々な環境に生きる世界中の人々が、共通の目標のもとに一つになったときに生み出される大きなチカラ。CAREのロゴにはこのような意味が込められています。

公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン

〒171-0031 東京都豊島区目白2-2-1 目白カルチャービル5階 TEL:03-5950-1335 FAX:03-5950-1375
Email:info@careintjp.org <http://www.careintjp.org>

※本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを堅く禁じます。
この年次報告書のデザイン・レイアウトは大盛印刷株式会社のご協力により、制作されています。
また、同社のご協力により、低価格でのカラー印刷が実現しました。
(2021年10月発行)